

# Barikei

<https://imabari.keizai.biz>

人が見える、まちの話



今治をもっと  
好きになるためのヒント集

ウエブで日々流れていくニュースを、  
あえて紙に残すことにしました。  
それは、今治で起きている小さな変化が、  
10年後、50年後のこの街を作る  
確かな足跡だと思ったからです。  
次は、あなたの物語を取材させていただきます。

## 表紙|カメラマンの一言

「今治市波方町の海山城展望公園から今治港方面を望む。公園では満開のソメイヨシノ約1500本に包まれ、花見を楽しむ家族や市民の姿が広がる。この日は市内各地で桜が咲き誇り、海と街並みを背景に、やわらかな陽光が春ののどかなひとときを印象深く彩っていた。」



写真家／グラフィックデザイナー  
竹國照顕

1973年 尾道生まれ、今治市在住。広告写真の撮影や中四国地域を中心に写真作品を撮る。写真教室の講師や講演など幅広く活動している。制作プロダクション「クレアテゴ」、「Setouchi PHOTO 写真教室」代表。

発行:合同会社企画百貨  
所在地:愛媛県今治市大西町  
山之内甲516-2

編集長:小林友紀

## 今治経済新聞を支えてくれる サポーター様

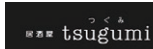
“まちの記録係”として広域今治圏の“HappyNews”をお届けする今治経済新聞の趣旨に賛同し  
応援して頂いているサポーターです。



手作りのお弁当は、まるで家庭の味。プロが厳選したお米と、お客様の健康を考えた味付けが自慢です。毎日のお弁当はもちろん、スポーツ大会や会議など、様々なシーンでご利用いただけます。予算や好みに合わせて、お気軽にご相談ください。

### 揚揚うどん 大西店

今治・大西に根差して四半世紀。地元へ愛される店として、ボリューム満点のうどんをはじめ、豊富なセットメニューをご用意しています。大西出身オーナーが繰り出す、話題性バツグンのキャンペーン情報にもご注目ください。



地産地消にこだわり、瀬戸内海で獲れた鮮魚や旬の野菜を使って、お酒がススム美味しい料理をお作りしています。地元今治の方のご利用はもちろん、駅前の立地を生かして、観光や出張の方のご来店もお待ちしております。



明治35年創業の造船専門メーカーです。みなさまに支えられてこれまで3,000隻を超える船舶を世に送り出してきました。今では脱炭素社会の実現に向けて新燃料対応船の開発、建造に力を入れながら持続可能な街づくりにも取り組んでいます。



創業100年以上の今治の老舗文具店です。最新文具から懐かしの文具まで、幅広く取り揃えております。インスタにて最新情報発信中!



大工自ら打合せをし、直接施工する一貫体制が強みです。新築からリフォーム、床の張り替え、手すりの設置など住まいのことなら何でも相談してください。親切・丁寧をモットーにご対応いたします。「街の頼れる大工さん」を目指しています。



今治市玉川町にある農園。50アールの土地に約1200本のブルーベリーを植えて丹精込めて栽培しています。「ものづくり、人づくり、町づくり」を基本理念とし、より豊かな、地域づくりのために尽くしています。



今治で40年の実績を持つ地域密着の工務店です。注文住宅から商業施設、小さな修繕まで自社一貫体制で対応。「たてもの相談窓口」として地元のあらゆる建物を支えます。授乳室完備の新店舗もお待ちしております。



# LOCAL HERO

#今治を耕す人

## 給食の「向こう側」で子どもたちの未来を育む



農家  
今村 伊都子さん  
(今治市立花地区)



今治の学校給食には、全国に誇れる歴史があります。それは「自分が無農薬の野菜を作るから、自校式給食(学校での調理)を守ってほしい」と願った農家たちの情熱から始まりました。その志を受け継ぎ、40年以上にわたって土に触れ続ける今村伊都子さん。彼女の野菜作りは、単なる農業ではなく、子どもたちへの「祈り」そのものでした。

**「川を汚さない給食」から始まった、命のバトン**

今治市街に近い立花地区。かつて、給食センターの建設計画が持ち上がった際、排水による川の汚染を危惧した農家たちが立ち上がりました。「立花有機研究会」。今村さんの父もその一人でした。「子どもたちのために、安心安全なもの」。その一心で行われた行政への働きかけが実り、今治ではいち早く地産地消の有機野菜給食が実現したのです。

大きなニュースにはならない。でも、私たちの街をちよっとずつ楽しく、豊かにしている。今治には、そんな営みが、いくつもあります。誰かが選り、続けてきた時間。その積み重ねを、そっと束ねました。

### もくじ

- 特集 ローカルヒーロー
- 変わる今治、変わらない今治
- 今治を選んだ、私たちの理由
- NEWSTANDARD
- 超超超ローカルニュース

### Web & SNS

#### もっと深く、今治を知る

紙面で紹介しきれなかったインタビューや、撮り下ろしのフォトギャラリーはウェブサイトとSNSで公開中です。



公式ウェブサイト  
imabari.keizai.bi  
過去の全アーカイブを無料で公開しています。



Instagram  
最新の取材風景や、記事公開の速報をリアルタイムでお届けします。



父の背中を見て育った今村さんは、保育士を経て30歳で農業の道へ。「食という字は『人を良くする』と書くでしょう。体を悪くするものを作っちゃいかん。その信念は、40年経った今も揺らぎません。

**土を観察し、虫と向き合う**

「**手仕事**」の日常  
今村さんの朝は早く、1年を通して大根・ニンジン、かぼちゃなど

10種類以上の野菜を育てます。病害虫対策もすべて手作業。「寒くても鼻水ふきながらでも、やらんといかん。かつては多くの仲間がいた研究会も、現在はわずか4人。それでも今村さんは、朝7時に学校へ野菜を届ける当番を欠かしません。

「ほんの一割、二割の違いで、安心でおいしいものが食べられるなら、その価値はあると思うんやけどね」

そう語る今村さんの野菜は、手間暇がかかっているにもかかわらず、手に取りやすい価格で市場にも並びます。多くの人に、当たり前のように良いものを食べてほしいという願いからです。

**73歳の挑戦、そして次世代への「気づき」**

今村さんの原動力は、常に「子どもたち」です。かつて自閉症の子ら

の自立を願い、パン工房を立ち上げた経験もある彼女。今も地元の小学生を畑に招き、授業を行っています。「子どもたちがあ、わかった！って気づく瞬間がある。それが何よりうれしいし、元気をもらえるんよ」

現在、73歳。新たに「黒ニンニク」の加工にも挑戦するなど、その意欲は衰えません。後継者不足という課題はありますが、孫娘が農業に興味を示していることが、今の小さな希望です。  
先人たちが築いた「有機の学校給食」という宝物を、絶やしたくない。今村さんの畑には、今日も子どもたちの健やかな成長を願う優しい風が吹いています。

2026年1月22日公開



全文は公式サイトで



**「二便の差」が分けた運命と、故郷への想い**

品部さんの活動の根底には、終戦直後の忘れられない記憶があります。20歳で入隊し、旧満州や濟州島で終戦を迎えた品部さん。1945年11月11日、復員船で故郷を目指しましたが、彼が乗った

**101歳の「花の守り人」が道端に立てる、生かされた命の証**



品部 政夫さん (今治市玉川町)

船の「二便前」に出港したのが、北方町沖で沈没し多くの犠牲者を出した「第十東洋丸」でした。「たった二便の違いで助かった。自分は生かされた」その思いが、戦後の品部さんを突き動かしてきました。郵便局員として勤め上げた後、竹林整備や炭窯作り、ボランティア団体「市民の水を守る会」の立ち上げなど、休むことなく地域のために尽くしてきました。

てきた地区の花壇を手放すという苦渋の決断も経験しました。それでも、品部さんの歩みは止まりません。自宅近くの橋の上にある花壇には、今も手入れの行き届いた草花が並びます。その花壇の傍ら、品部さんの哲学を象徴する一枚の立て札があります。「明日枯れる花にも水をやる心」  
101歳を超えてなお、品部さんは自分ができる役割を黙々と果たしています。

2026年1月7日公開



全文は公式サイトで



### 「空白区間」がつながる日も いよいよ間近?

今治の交通の流れを大きく変える「今治小松自動車道」。長らく未開通のままだった「今治湯ノ浦IC」から「今治IC」までの区間に、新たに設けられる新インターチェンジの名称が、「今治朝倉IC」に正式決定しました。

現在、今治湯ノ浦IC～今治朝倉IC間は2026年度中の開通を目指し、着々と工事が進行中。今治ICまでの全線開通時期は未定ながら、市街地と松山自動車道が直結する「高規格道路ネットワーク」の完成に向け、着実に歩みを進めています。

2025年11月13日公開



全文は  
公式サイトで



### 戦禍を耐え抜いた 「奇跡のレンガ壁」が解体

今治のタオル産業の礎を築いた「興業舎」。その1909年建設の工場外壁が、その役目を終え、解体されました。

1945年の空襲で市街地が焦土と化す中、唯一焼け残ったこの壁は、明治から続く繊維の町の誇りを伝えてきました。

解体に際し、市はデジタルアーカイブ化を決定。「実物は失われるが、データと記憶の中で歴史を語り継ぎたい」としています。

2025年8月6日公開



全文は  
公式サイトで

変わらない今治

変わる今治



写真提供=所属事務所

ここで歌えて思い残すことはない。  
これからも今治を盛り上げたい



### さよならフジグラン今治。 レーモンド松屋さんが 贈った「最後の恩返し」

1月末で閉館を迎えた商業施設「フジグラン今治」。その27年の歴史のフィナーレを飾るように、1月10日、歌手・レーモンド松屋さんの歌声が吹き抜けのホールに響き渡りました。

かつてアマチュア時代、この場所でステージに立っていたレーモンドさん。「苦しい時代を支えてくれたこの場所に恩返しを」と、ノーギャラでのライブを申し出ました。

名曲『夜明けのブルース』を「ここはフジグラン 今治の店」と替え歌で披露。集まった大勢のファンや買い物客が手製のうちわを振り、2階まで埋め尽くされた会場は、かつてのにぎわいを彷彿とさせる熱気に包まれました。

形ある建物はなくなっても、ここで交わされた笑顔や感謝の言葉は、訪れた人々の心に深く刻まれました。

2026年1月13日公開



全文は  
公式サイトで



## 日本一周の果てに、 穏やかな瀬戸内に癒されて



宮坂 大智さん / NPO法人ECOFF代表

### 移住の決め手

日台湾での島暮らしで感じていた海ゴミの問題。それを解決するには、山林の管理が欠かせない。そう気づいた時、山と田畑、そして古いけれど立派な家があるこの場所が『宝の山』に見えました。ここは、自然と共生する自立した暮らしを実践できる最高のフィールドです。

### 今治のここが好き

玉川エリアの『ちょうど良さ』。静かな里山でありながら、市街地まで車で15分。過度な干渉はないけれど、困った時にはそっと手を差し伸べてくれる。この絶妙な距離感が、長く住み続けるには重要なんです。



東京都出身。村おこしNPOを運営し、台湾での生活を経て、2024年に玉川町へ。友人の実家である築60年の古民家と、江戸時代から続く屋号を引き継ぎました。

2025年12月26日公開

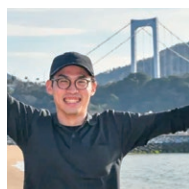


福岡 寿亮さん / 道の駅 マネージャー



福岡県出身。自転車での日本一周中、しまなみ海道の穏やかな海に心打たれ、2020年に移住。現在は伯方島の道の駅で、訪れる旅人を迎える側に立っています。

2026年3月17日公開



## 50年後の未来を見据え、 里山のバトンを繋ぐ

### 移住の決め手

日本中を回りましたが、瀬戸内海の湖のような静かさは特別でした。かつて旅先で受けた恩を、今度は自分が旅人に返したい。そんな思いで、サイクリストの経験を活かせる今の仕事を選びました。

### 今治のここが好き

家族で夕日を眺める鴨池海岸公園での散歩。島で働き、陸地(市街地)で暮らす。病院や買い物などの利便性と、最高の景色が両立している今治は、子育て世代にとっても過不足のない街です。



2025年  
10月30日公開



## 『いつか』の夢を『今』に変えた、朝倉の星空



### 今治のここが好き

朝倉の自宅前の田んぼから見える満天の星空です。街の便利さと、すぐそばにある豊かな自然。不便なこともある古民家暮らしですが、自分たちの手で暮らしを耕す楽しさを実感しています。



### 移住の決め手

離れて暮らす不安もありましたが、最後は勢いでした(笑)。移住後、パートナーが淹れてくれた一杯のコーヒーに感動し、ずっと胸に秘めていた『誰もがほっとできる居場所を作りたい』という夢が動き出したんです。



横田 七海さん  
古民家カフェ「菜」オーナー

高知県出身。養護助教諭として働いていた横田さんは、コロナ禍をきっかけに今治でリモートワークを始めたパートナーを追いかけ、2021年に移住しました。

## 今治を選んだ、 私たちの理由。

今治には、海があり、山があり、そして何より「商いの活気」と「人の温かさ」があります。都会の喧騒を離れ、この街に根を張ることを決めた3人に、その理由を聞きました。

# 超超ローカルニュース



今治のマスコットキャラ、バリイさん、ファン手作りの雨がっぱを初着用

今治の推し活、ここに極まれり! 巨体ゆえに雨天時はブルーシートが限界だったバリイさんに、ファン歴13年の「衣装職人」が3カ月かけ特製雨がっぱを新調。愛の詰まった勝負服(?)のおかげで、雨の日ものんびりPRが可能に。今治の平和はファン愛が守っている。

2025年11月5日公開



ハロウィン演出? 今治・イチジクの木に「リアルすぎる」マネキン、存在感放つ

今治市の畑に、鳥もビビる「リアルすぎるマネキン」が出現! 農家の白石さんが理容店から譲り受けた生首(?)に服を着せて吊るしたところ、その強烈な「目力」で鳥害が激減。図らずもハロウィンばりのホラー演出となり、近隣住民を震え上がらせてつも笑わせている。

2025年10月28日公開



写真提供=今治城管理事務所



今治城を映したリフレクション写真、SNSで話題に

築城の名手もびっくり? 日本三大水城・今治城が、堀の水面に完璧に映り込む「奇跡の一枚」がSNSでバズり中。学芸員が「ふらっと」スマホで撮ったとは思えない鏡張りの絶景に、800超のいいねが殺到。海水魚も泳ぐ広大な堀が、この時ばかりは天然の巨大フォトスポット!

2025年1月23日公開

月間最高PV

# 398,000 views

今治市民のみならず、市外・県外の「今治ファン」からも熱い視線を集めています。私たちはこれからも、30万回の「へえ〜!」「おもしろい!」を生み出すメディアであり続けます。

取材スポット数

# 市内全域

(陸地部から島しょ部まで)

年間記事配信数

# 約300本

# 数字で見る今治経済新聞

今治の「今」を届けて、おかげさまで多くの方に愛されるメディアに成長しました。

# New Standard

今治に生まれた「新しい定番」。

伝統ある造船とタオルの街、今治。この街の歴史や自然に惚れ込んだプレイヤーたちが、新しい感性で「集いの場」を生み出しています。

## 地域交流拠点「くろごま団地」



全文は公式サイトで

2025年9月2日公開



こだわりすぎず、緩やかにつながる。ここでは、誰かの「やりたい」が形になる実験場です

埼玉で空き店舗再生の価値を体感し、縁あって今治へ。この建物のオーナーさんとの素敵な出会いが決め手でした。初期投資なしで店が開けるシェアキッチンや本棚オーナー制を通じて、挑戦する人に伴走したい。この場所をきっかけに、商店街全体のシャッターを一つずつ開けていくのが僕の野望です。

オーナー: 福地 立憲さん(埼玉県出身・デザイナー/元今治市地域おこし協力隊)

## 地域交流拠点「ミヤウラ商店」

移住者の店が「おしゃれすぎて入りにくい」と言われにくいように。日常に役立つコインランドリーをきっかけに、誰もが自然に混ざり合える場所を作りたい

地元の人から『大三島のどこがいいの?』と聞かれることがあります。外の目線で地域の魅力を再発見し、地元へ伝えるのが移住者の役割。観光客も、地元の人も、移住希望者も。旧薬局がそうだったように、ここが再び、みんなの思い思いの時間が流れる『開かれた場所』になれば嬉しいです。

店主: 大橋 健太郎(おおはしけんたろう)さん・美加さん夫妻(千葉県・山口県出身/元今治市地域おこし協力隊)



全文は公式サイトで

2025年10月17日公開

## 複合施設「ICHIE(イチエ)」



全文は公式サイトで

2025年3月14日公開

働きたくても預け先がない。そんな親たちの孤独をなくしたい。恥を捨てて先輩方に教を請いながら、試行錯誤で形にした『居心地のいい場所』です

スナックを経営する中で、夜に子どもを預けられず働くのを諦めるシングルマザーの姿を間近で見ました。私自身も4人の母。かつて外出すらままならなかった経験から、親が気軽に外に出て、自分のチャレンジを続けられる環境を作りたかったんです。ここでは、従業員もお客さまも、みんなで支え合える場所を目指しています。

オーナー: 寺岡 梢未さん(今治市出身/4児の母・実業家)

